

ち主ではあるが、あまりたくましい行動のみられないタイプ。Dタイプ—心の働きは単純だがたくましい行動のできるタイプ。Eタイプ—心・行動とも平均的タイプ。これらのうち、Aタイプが最も望ましいものではあるが、他のタイプもそれぞれの特徴に応じて指導を加えることにより、社会化の方向に向けて「生きて働く力」の定着をはかり、ひいては研究主題に迫ることができるのではなからうか。

3 研究主題と生徒の実態

生徒の実態の中から、比較的共通するものをまとめてみると、次のような点で中学部生徒の共通した特徴をみることができる。

- (1) やさしく思いやりがある。
- (2) 喜怒哀楽の感情を比較的好く表わす。
- (3) 人に言われたり指示されたりすると行動するが、自分から進んでは何もしない。
- (4) 協力しようとしめない。 (5) あきやすく根気が続かない。

この共通点を学級指導上の留意点としてふまえ、さらに、研究主題との関連をもったひとりひとりの実態把握につとめ、「生きて働く力」の育成と取り組んできた。(生徒の実態は添付資料参照)

4 研究主題と学習過程

「豊かな心を持ち、たくましく行動する」子どもたちは、周到に準備された学習過程・効果的な指導法が確立されて、はじめて「生きて働く力」を発揮すると思う。そこで、中学部では基本的なかまえとして、研究主題にせまるには、やる気・意欲の発生持続との関係を追及しながら、現われる行動は、社会的に承認されうる社会化の方向で深化されるものでなければならないと考えたのである。

このことは、研究紀要第3集「表現化に視点をあてた指導」の中で詳しく述べている。(註2) すなわち、基本となる学習過程は、昨年度までの立場をそのまま踏襲し、下表のようにした。

導入の段階	展開の段階	発展の段階
① 興味・意欲・関心の発生。 ↓ ② 興味 } 意欲をもつ。 関心 }	① みんなの中で生き生きと 取り組む。 (意識した取り組み) ② 興味・関心・意欲の持続。	① よろこびをもつ。 ↓ ② 生活の中でわかる。